

2017年11月10日（金）～12日（日）

参加者：岡本（L） 右田 片山琴美

寒波の予想を気にしながら夜の大阪を脱出。途中の大雨も風も何のその、中国道東城→L314を経て奥出雲おろちの館に到着（11日1:00）。雨は気にならない程の小降りになっていた。軒先でも借りようかと休息所に近づくとうと戸がすうっと開いた。新しい綺麗な休息所だ、今夜は此の休憩所で泊めてもらう。

11月11日（土）晴

6:55 出発 館の側のループを下り船通山へ向かう。山装う神話の里には懐かしい日本のふるさどがありました。前方に船通山らしいピーク見えてきました。やがて鳥上瀧コースと亀石コースの分岐（7:24）亀石コース入る。駐車場着（7:30）少し歩いて登山口、自然林の優しい入口そして植林地帯が少しあって又自然林の登りとなる。ごろごろの石の上に積もった落葉を踏みしめてざくざくと登る、もうすぐ稜線に出ると思ったらここから水平道となる（8:05）。美しい水平道だ、おろちの背を行く様にくねくねと山襷を縫って進む。空滝と急よく流れ落ちる白布の様な滝を過ぎると最後の階段登り、尾根に出ると右から鳥上瀧コースを合わせ左へ山頂に向かう。船通山(1,142.5m)の頂上は小広い台地で遮るものは何もなくコンパスの軸になった気で360°見廻す（山頂9:02～9:16）。往路を引き返し駐車場10:05到着。鬼の舌震いに向かう。

鬼の舌震いに到着（11:24）舌震亭で蕎麦をいただき約2kの散策コースに入る。吊場所を渡って大馬木川のV字溪谷に次々に現れる巨岩、奇跡。加えて兩岸の岩の細い割れ目から空に向かって生い茂る大木の生命力に圧倒される。名前の付いた20余りの大岩を見て舌震上橋から引き返し途中から下の道を行き駐車場に戻る（12:30）。おろちの里から、たたらの里へ、竜頭ヶ滝を見学（13:50～14:10）山道を下って滝の前に出る。勢よく落下する立派な滝の裏に大きな洞窟が有って小さな祠がありました。

今日のメはおろちに拘わる須斐鳴嚙の須佐大宮参拝（14:36～15:00）日本海から流れ湧くと伝えられる古い井戸、大社造りの社、400年の大杉を見て今夜のキャンプ地、三瓶山北の原キャンプ場に到着（15:30）。前に芒の大草原、広々とした美しい森ノキャンプ場です。（記：片山琴美）



登山路紅葉



船通山頂上



鬼の舌震



鬼の舌震の紅葉

鬼の

11月12日(日)晴れ

5時30分に起床し、北の原キャンプ場から西の原登山口へ移動。樹齢400年の定め松を鑑賞し、登山開始。牧場となっている草原を抜け、自然林の樹林帯を登る。傾斜の緩い登山道を1時間ほど登ると高木が消え、見晴らしが良くなる。やがて快適な水平道となり、最後の茅野を抜けると

男三瓶山の頂上に到着。天気に恵まれ心地よい。休憩後、女三瓶山へ向かう。滑りやすい急な下りを過ぎると室の内と呼ばれるカルデラが望める。ピークは過ぎているが、黄色と赤の紅葉と湖の水色の組み合わせが美しい。女三瓶山の頂上には電波塔が数基建っており残念な景観。スキー場のリフトを



使えば楽に登れるのでハイカーが多い。久しぶりに茱萸の実を頬張り、子供の頃を思い出す。さらに進み、孫三瓶山へ向かう。孫三瓶山まで来ると人は少なく、ゆっくりと休憩できる。地元の方と思われる男性に、JR 三江線の廃止が決まり逆ににぎわっていることや石見銀山の話を聞く。粘土質の滑りやすい登山道を下り、最後の子三瓶山に登る。最初に登った男三瓶山の大きな山塊が間近に望める。4つのピークを周回し、累積標高差約1,000mを完歩。琴美さんの健脚ぶりに感心する。以前から登りたいと思っていた山で天気にも恵まれ、とても楽しい山行でした。企画、食料等の準備、車の運転と岡本さんには大変お世話になりました。ありがとうございました。(記：右田)



定め松と男三瓶山



男三瓶山の登り



男三瓶山



上段：カルデラと
孫・子三瓶山（左）
男三瓶山（中）
子三瓶山（右）
下段：樹林帯の紅葉（左）
最後に男三瓶山を振返る